変身する猫ヒーローだけど異世界来た

ガイアが俺輝けと囁いてる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
変身する猫ヒーローだけど異世界来た

【Ｎコード】
Ｎ８１４９Ｙ

【作者名】
ガイアが俺輝けと囁いてる

【あらすじ】
２０１○年。動物愛護団体Ｐ○●Ａから資金提供を受けた猫野目博士は研究の結果、ついに動物に人並みの知性を持たせることに成功した！知性を得て、当初は人に従っていた彼らだが、突如、虎毛の知性ネコであるブラックタイガーが人間社会の転覆を掲げて蜂起する。人類に対して融和的である犬族・鳥族は彼らの前に駆逐され、人類の運命はネコ族の良心であるライオンのマクシミリアン先生に託された！そして、人類に隠れた数々の激戦の結果、命を落としたマクシミリアン先生の意思を継いだ白いアメショ『小床木バン』は

捕えられた猫野目博士を救うべく、ブラックタイガーの秘密基地に突入。激闘の末についにブラックタイガーを打倒した！そして、追い詰めたブラックタイガーは猫野目博士を使い、最後の悪だくみを実行に移そうとする……そして一同が会した時、サボってネトゲをやっていたブラックタイガーの研究員のせいで全員が異次元に飛んだのだ！！！

俺の名は小床木バン！！！！

「おのれ…小床木バン（おとこぎばん）まさかこれ程の力を秘めていようとは…」

「ここまでだ！ブラックタイガー！猫野目博士を解放し、降伏して罪を償え！」

断続的に灯る赤いランプと警報を鳴らしながら、崩壊し続けるブラックタイガーの秘密基地の中。俺は纏わりつく黒服の戦闘キャットを前足のパンチで蹴散らしつつ、奥に倒れる黒い虎毛に歩みを進める。

「認めん…認めんぞ…たかがイエネコの化身である貴様が虎の力を持つ俺を倒すなど…」

「貴様を倒したのは俺だけの力ではない…」
「何だとぉぉ…」
「俺の中には、貴様に利用され、使い捨てにされた6将軍の力と魂、そして親友であった片目の吉宗。さらには、貴様と俺の師でもあったマクシミリアン先生の魂が宿っているのだ！」

「くっ…裏切り者に死にぞこないの老いぼれの力だと」

「そのバカにした老いぼれの力を受けるがいい！変身ッマクシミリアン！！」

——パンテェラ・チェンジ！ｍｏｄｅ…レオ！！！——

俺の首輪から流れる清らかな女性の声と共に、俺の体を一瞬で緑色の光が包み込み、辺りを眩しく照らす。そして光が引いた後、そこに居たのはがっしりとした体格に豊かなタテガミを持つ雄雄しきライオンの姿だった！

「くそう、他猫の手を借りる、猫かぶり野郎め！」

「なんとでも言うがいい、喰らえ、キングスブロー！」

唸りを上げて黒虎を張り飛ばす俺の右前足。

右頬に先生から授かったレオ・パンチを食らった黒虎は、哀れ勢いよく吹っ飛ぶと、『ズガン』と壁を砕き、隣の部屋にまで飛んで行った。

「これは・・・猫野目博士！！」

黒虎が突っ込むことで開いた穴の先には、頭にコードが付いたヘルメットを被らされた猫野目博士がベットに横になっており、そのコードをにつないだパソコンの前で研究猫が一心不乱にマウスを操りながらキーボードを叩いていた。

「まだか…まだ解析できんのか…」

「ちょっと待つニャン！今、エリアボスと戦ってるところニャン！」

催促する黒虎に叫び返す白衣の研究猫。

エリアボスだと…こいつらは猫野目博士の脳からいったい何を…

そう俺が思ったその時。

「やったニャン！レアモンスター討伐成功ニャン！」

その言葉と共に、壁一面に張られていたディスプレイがもやもやと霞がかった様に不鮮明になり、強烈な光と共に、俺や黒虎、猫野目博士を含む数十ネコと一人は薄汚れた石造りの部屋にいた。

――――――――――――――

なんだか…ずいぶんと長い時間寝ていたような気分だった。
その間に、何匹ものネコが俺のそばから離れて行った気がした。
いつの間にか俺の変身は解かれており、なぜか黒虎も体の傷が癒えているようだ。

「貴様！今まで一体、何をやっておったのだ！！」

俺のそばでは黒虎が白衣の研究ネコの襟首を掴み、吊り上げながら怒声を上げている。

「ゲームにゃん！ずっとやりたかったニャン！今まで休みなしで働かされたたたんだから、文句言うなニャン！」

白衣の研究ネコはそう言うと、後ろ足で黒虎の腹を蹴りあげる。
そして予想外の反撃に手を緩めた黒虎の隙を付いて、石の床を走り抜けて部屋を出て行った。

「万策尽きたな…ブラックタイガー…覚悟しろ。変身ッマクシミリアン！！」
俺は両前足を交差させると、黒虎に正義の鉄槌を下すべく再びライオンの姿に…

…あれ？変化しないぞ？
「変身ッマクシミリアン！！」
「………マクシミリアン！！」
「マクシミリアンに変身っ！」
「じゃあ吉宗でもいいい！」
「オイッ！反応しろ！！！」
首輪をぺしぺし叩きながら変身を促す俺。
しかし、首輪は何の反応も返さずに鈍く銀色の光を放つのみである。

「ほう…どうやら被ったネコが剥げたようだな！！」
俺の変身が上手くいかないのを見て、威勢を取り戻す黒虎。
「くっ…舐めるなよ！他猫の手を借りずともこの『小床木バン』！悪を成敗して正義を知らしめてくれるわ！」
変身を諦め、後ろ足だけで立ち、師匠直伝の拳法の構えを取る俺。
「ふっ…黒でも白でもネズミを捕るのが良い猫だという名ゼリフをその身に教えてやろう！」

そう言って、黒虎の体は巨大な虎の姿に変化する。
そして互いに突っ込む２匹。

「うおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！」

黒い獣と白い獣、二つの体は交差し、数十秒の後に辺りは静寂に包まれた…

――――――――――――――――――

俺の名は小床木バン！！！！（後書き）

さっきＮＨＫの嵐の番組ででた、被災地のご当地ヒーローショー見てたら

変なインスパイア来た。

その結果がこれ。

これがプロローグだァ！！！

「あっルネ、猫が目を覚ましたわ。」

俺が長い眠りから気が付いた時、目の前にいた小柄な白髪のツインテールをした女は、そういいながら俺の前から離れていった。

「ここは一体…」

そう呟きながら起き上がる俺。痛みに顔を顰めて自分の体を見渡すと、自慢の白地を基調としたアメショ特有の艶やかな毛皮は包帯で包まれており、至る所に赤い血が滲んでいた。

「そうか…俺は負けたのか…」

思い出すのは、石で囲まれた部屋で対峙した、兄弟子である黒い虎毛。

奴は俺が繰り出した獅子山拳とまったく同じ技を虎の姿で使い、俺を打ちのめしたのだ。

おそらく、あの後瀕死になった俺を放置し、猫野目博士を連れて、黒虎は去ったのだろう。

そう思うと力が抜け、その場に倒れ込む様に横になる俺。

しばらくすると、白髪ツインテールと入れ替わる様に腰までうねる黒髪の大女がやってきて、俺の体を触ったり、あごの下に手をや

ったりなどして、怪我の調子を見はじめた。
とりあえず、タダの一般猫だと思わせるため、弱弱しく『にゃぁん』とだけ一声鳴いておく。
黒髪の大女はそんな俺の様子を見て、
「転送システムはまだ起動してなかったって言うのに、アンタたちはどうやってやって来たんだろうねェ」
と呟いていた。

転送システム？
どういうことだと訝しがっていると、俺の首輪に内蔵されている人工ＡＩが神経組織を通じて俺の脳の電気パルスを活性化させ、通信を開始し始めた。
—おはようございます、マスター—
—おはよう、マリーヌ—
声に出さず、思念で返事をする俺。
—さっきはなんで変身させてくれなかったんだよ—
もう少しで、黒虎を倒すことができたのに…と不満をあらわにすると、マリーヌは興奮した様子で返事を畳みかけてきた。
—そんな事よりもですね！すごいんですよマスター！一昨日の…

ってマスターが寝てたから一昨日なんですけども。あの部屋中のディスプレイから光を浴びた瞬間にですね！次元の違う位置から干渉を受けて、私達の魂が転送させられたんです！実際にマスターの体も再構築されたものですし！私だって随分と機能が弄られて再構築されて！―

―ちょっと、まってくれ。落ち着いてくれ。よくわからないよ―

ＡＩの癖に興奮するマリーヌを宥める俺。

そもそもマリーヌはこれほど感情表現ができるはずはなかったのだが、なぜか今までにないほど表現豊かで、頭が痛くなってくる。

―もう！とにかくこれを見てください！―

マリーヌがそう言った瞬間、俺の見ている光景の手前に緑色の情報ボードが映り、様々な情報を羅列した。

名前　小床木バン（おとこぎばん）
【基本職】Ｆ．ＣＡＴＵＳ（イエネコ）【サブ職業】変身ヒーロー
腕力　イエネコ
体力　イエネコ
器用さ　イエネコ
敏捷　イエネコ
知力　人並み
精神　師範代
愛情　ネコ程度
魅力　薄めの虎柄・白アメショ

生命　　馬ぐらい
運　　　ヒーロー

スキル
【獅子山拳・師範】Ｌｖ．１７
【魂の伝承者】Ｌｖ．１
【正義の心】　Ｌｖ．１０
【人語】Ｌｖ．１１

―すごいでしょう？私、こんな状態まで表示できる機能が付いたんですよ！―

―…これがどうしたんだ？―

―そうか…すごいな。―

何がすごいのかよくわからないが、とりあえずマリーヌを褒めておく。

そのまま興奮してしゃべり続けるマリーヌの機嫌を取りつつ、わかったことは。

俺とブラックタイガー一味はあの閃光で異世界に来たらしい。
そして俺が変身できなかったのは、異世界に来た時に６将軍と親友・師匠の魂が弾き飛ばされてバラバラになったから。
彼らを再び、見つけ出せば何とかなるんじゃないですか。
それよりも、猫野目博士に私を見てもらいたいから、とっととブラックタイガーたちを倒しちゃいましょう。

マリーヌの言った事を要約すると以上である。

俺もブラックタイガーを倒すことに関しては、異論がない。

しかし、俺の力である変身能力が失われた状態では勝てないだろう。

しかし、いつか滅ぼしてやるぞ、ブラックタイガー。

俺は傷だらけの体を柔らかいクッションに沈めると、英気を養うべく、段ボールの中で静かな眠りについた。

これがプロローグだァ！！！（後書き）

多分、引き伸ばしても全１０話ぐらいで終わると思う

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8149y/

変身する猫ヒーローだけど異世界来た

2011年11月24日02時53分発行